

第2次三田市スポーツ推進基本計画(案)について

(答 申)

平成29年9月15日

三田市スポーツ推進審議会

目 次

はじめに	1
1 審議の経緯	2
2 三田市スポーツ推進基本計画の基本コンセプトについて	2
3 総論	6
おわりに	7
三田市スポーツ推進審議会委員名簿	8
資料（諮問書）	9

はじめに

平成29年7月28日に、三田市長から「第2次三田市スポーツ推進基本計画(案)について」の諮問を受け、三田市スポーツ推進審議会で協議を行ってまいりました。

平成24年3月に国の「スポーツ基本計画」が策定され、平成24年12月に策定の「兵庫県スポーツ推進計画」など、国や県においても計画の整備が進められました。これらの計画を参酌し、市の第4次総合計画後期基本計画、第2期教育振興基本計画との整合性を踏まえた市のスポーツ推進計画を策定するにあたり、「スポーツで人生が変わる」の基本理念を念頭に置きつつ、諮問にある「子どもに夢を!」「高齢者に生きがいを!」「障がい者に元気を!」「地域コミュニティの活性化を!」の4つのコンセプトについて審議を重ねました。さらに三田らしいスポーツ環境を構築するためのノーマライゼーションを進め、すべての市民がスポーツの価値を共有できる社会の実現に向け、現行計画に基づいたこれまでの実績も踏まえつつ、様々な角度から調査・議論を重ね、この答申に至りました。

三田市長におかれましては、この答申を踏まえ、市のスポーツ活動がますます活発化し、施策が充実するよう、推進していただくことを期待しています。

平成29年9月15日

三田市スポーツ推進審議会

会長 高見 彰

1 審議の経緯

審議会が行った調査・協議等

平成29年7月28日（第1回審議会）

- ・ 諮問受理
- ・ 諮問の趣旨及び基礎資料について
- ・ 三田市スポーツ推進基本計画進捗状況
- ・ 三田市スポーツ推進にかかる市民アンケートの集約
- ・ 第2次三田市スポーツ推進基本計画の概要

8月23日（第2回審議会）

- ・ 三田市スポーツ推進基本計画にかかるテーマ別審議
 - ① 「子どもに夢を！」
 - ② 「高齢者に生きがいを！」

8月30日（第3回審議会）

- ・ 三田市スポーツ推進基本計画にかかるテーマ別審議
 - ① 「障がい者に元気を！」
 - ② 「地域コミュニティの活性化を！」
 - ③ 「三田らしいスポーツの推進」

9月13日（第4回審議会）

- ・ 計画コンセプトの表記見直し
- ・ 総括と答申内容の確定

2 三田市スポーツ推進基本計画の基本コンセプトについて

(1) スポーツで「子どもに夢を！」

【現状と課題】

- ・ 運動、スポーツをする子としない子の二極化が進み、体力低下が著しく見られる中、心も体も健康で人とのつながりの中で色々なことにチャレンジする「元気な子ども」に育てていくために、「積極的に体を動かす子ども」を育てていく必要がある。
- ・ 学校体育の充実を図るとともに、学校、家庭、地域、行政など様々な団体組織が連携しながら様々な機会を活用して、子どもたちがスポーツに参画する「良質」な機会を充実させていくことが必要である。

以上の現状と課題を踏まえ審議した結果、以下のような意見や指摘がなされた。

- ① スポーツの定義について、乳幼児にスポーツはできないとの意見もありました

が、乳幼児の成長過程での身体・体力づくりの身体運動も含め、楽しく体を動かす遊びなどもスポーツの範疇であると言えます。三田市スポーツ推進基本計画では、スポーツを勝敗にのみとられる競技スポーツに限るのではなく、幼児や高齢者、体の不自由な方でも積極的に関わってもらえる三田市独自のスポーツ像を明確に定義すべきと考えます。

- ② 効率的に優秀な指導者を確保するためには、市が人材バンクのような情報集約のしくみを整備し、情報交換を密に行う体制が望まれます。今、スポーツクラブなどの現場で望まれているのは、1年以上の長期サイクルで安定して定期的に指導できる指導者です。人材を地域で見つけ指導者として育成するためには、単に登録して派遣するというシステムでは難しいと思われます。人材バンクは、需要と供給が合わなければ派遣できませんし、同じ人物ばかりの派遣にならないよう指導者育成事業をシステム化し、指導する者とされる者とのマッチングに工夫が必要です。
- ③ スポーツを競技としてとらえ、勝つことを目的としている子どもが多いようです。競技に取り組むのはすばらしいことですが、楽しく取り組みたい子どもがいることや、発育・発達に必要な運動や遊びを取り入れることの意義にも配慮が必要です。
- ④ スポーツクラブ21の組織強化部会では、指導者への講習会や、会員を対象に講演会を行うなど、クラブ内だけでなく三田市全体のために活動しています。これからは、行政のバックアップも受けながら、市をあげて様々な団体が一体となり、スポーツ推進の協力体制を確立していくことが望まれます。
- ⑤ 市内の公立中学校の部活動が縮小傾向にある理由として、生徒数と、顧問になる教諭の数が足りない現状が挙げられます。国の流れとして、今後は学校の部活動に外部指導者を積極的に登用する案が検討されており、三田市においても地域の指導者を含む民間からの人材を呼びこむ対策が必要です。部活動を学校に任せっきりにするのではなく、地域が子どもたちを育てるという目的意識を持ち、学校でできなくとも地域のスポーツクラブで行えるように進めることなども課題として検討しなければなりません。

まとめ

乳幼児の運動を含め、すべての子どもたちがスポーツに親しめるよう、市のスポーツ像を幅広く設定し、人材バンクを立ち上げ、効果的に活用することで指導者を育成できる仕組みを確立し、市と地域が協力して子どものスポーツ環境の充実に努めること。

(2) スポーツで「高齢者に生きがいを！」

【現状と課題】

- ・ 今後急激に高齢化が進む三田市で高齢者がいつまでも元気でいきいきと暮らしていくために、外出を含めた日常生活での活動量の維持に努めることで、身体機能・生活機能を

維持していくことが重要である。

- 市民アンケートによるとボランティア、スポーツ、サークルへの参加意欲の高い高齢者が多い。社会の価値観や高齢者のニーズの多様化に応じたスポーツ等の機会の提供が必要である。
- 市民アンケートによると、60歳以上のスポーツ実施率は高く、健康・体力づくりや運動不足の解消のほかに、スポーツを通じた友人・仲間との交流や自然とのふれあいなどを求める声も少なくない。

以上の現状と課題を踏まえ審議した結果、以下のような意見や指摘がなされた。

- ① 市で行われた市民アンケートでは60歳以上を高齢者として扱っていますが、60代前半は活発にスポーツを楽しんでいる人が多い世代と言え、スポーツ推進基本計画での高齢者の定義も65歳以上として良いのではと考えます。
- ② 高齢者イコール弱者的なイメージが社会全体にあり、これまで高齢者向けのスポーツには体操やウォーキングなど体に負担をかけにくいものや限定的なスポーツが多かったようです。しかしながらマスターズスポーツ大会が世界的に注目されているように、世代によるライフスタイルの違いを把握し、アクティブな高齢者のための取り組みも進めていくべきです。高齢者の競技交流の場を増やしていくため、いろいろな種目が行えるマスターズ大会など、市外からも参加できる催しを検討してはどうでしょうか。
- ③ 市や団体の取り組みにより、市民のノルディック・ウォーキングに対する関心は徐々に高まってきていると感じますが、ポールを持ってウォーキングコースを歩いている人はまだまだ少ない現状です。ウォーキングは毎日するが、1日だけポールを貸してもらっても続けられないし、個人で買うには安価ではないので手が出しにくい、という一面もあるようです。ノルディック・ウォーキングは膝への負担を軽減しながら全身運動ができる点など、福祉的な要素を持っていることを前面に押し出すことで、体力に自信が無い高齢者などでも気軽に始められるスポーツとしてアピールすることができます。

まとめ

スポーツを介してひきごもりがちな高齢者の地域参加を促し、個々のライフスタイルに合わせた多様なスポーツに気軽に取り組めるような機会を創出すること。また、ウォーキングへの関心が高いなか、ノルディック・ウォーキングの促進や、三田の環境を活かしたウォーキングのプログラムを開発すること。

(3) スポーツで「障がい者に元気を！」

【現状と課題】

- 障がいのある方がスポーツを行う機会は少なく、より参加しやすい機会づくり・支援体制づくりが必要である。
- 市民アンケートによると、「障がい者と健常者がともに（スポーツ活動）する機会」は少

なく、障がいのある方が身近にスポーツを楽しめるよう、スポーツ施設のバリアフリー化を含めた環境づくりとともに、スポーツを通じた交流を進め、スポーツにおけるノーマライゼーションの実現を図っていくことが必要である。

以上の現状と課題を踏まえ審議した結果、以下のような意見や指摘がなされた。

- ① 「障がい者に元気を！」というコンセプトの表記については、障がいのある方には元気がないという前提を感じます。夢を持ってスポーツに取り組んでいる方は多くおられます。障害の有無にかかわらず、障がいのある方、健常者が共に生きがい・趣味としてのスポーツ交流の機会を充実しようとするのが望ましい姿です。家から出て元気にスポーツを楽しむというニュアンスなら、「元気を」ではなく「スポーツで障がい者に活動の機会を！」の表記が適正であると提案します。
- ② 障がいのある方のランニング教室へのニーズは高く、マスターズマラソンで走りたいという人も増えています。昨年のマスターズマラソンには5人の伴走（併走）ボランティアが参加されました。現在伴走者（併走者）協会設立の話が進んでいます。関係団体協力のもと、講習会などの体験してもらえる機会を増やし、支える仕組みの確立と、サポーターの増員を図られるよう望みます。
- ③ ウォーキング、ランニングのボランティアは、自分がウォーキング、ランニングを得意としなくても一緒に歩く、あるいは話すだけでも良いので、井戸端会議のようなコミュニティの場を拠点として活動を広げていってはどうでしょうか。

まとめ

障がいのある方がスポーツに触れる機会は極端に少なく、多種多様なスポーツを楽しめる機会づくりに取り組むこと。また、障がいのある方、健常者が共に生きがい・趣味として積極的にスポーツ交流できる環境を整備すること。

(4) スポーツで「地域コミュニティの活性化を！」

【現状と課題】

- ・市民アンケートによると、成人の週1回以上のスポーツ実施率は58.4%と、平成23年の36.8%より大きく向上したものの、子育て世代や働きざかりの世代のスポーツ実施率が低くなっており、これらの若い世代が定期的運動実施を行う環境整備が必要である。
- ・市内にはスポーツクラブ21、体育協会、体育振興会、スポーツ推進委員会などがあるが、体育振興会は団体数が減少傾向にあり、スポーツクラブ21との役割分担やすみわけ、各地域の実情に応じた組織の再編が必要である。
- ・市民の多様化するニーズに対応していくため、スポーツ関連団体はもちろん、子育て、福祉、健康、環境など、様々な分野の団体等とも連携した幅広い取り組みを展開していくことが必要である。

以上の現状と課題を踏まえ審議した結果、以下のような意見や指摘がなされた。

- ① これまでの成果として、三田市は地域コミュニティが進んでいると言えますが、スポーツ推進に取り組むことで、さらに活性化を図ることができると思います。
- ② 現行の計画では、種目に限らずあらゆる日常の生活動作・身体活動をスポーツととらえています。スポーツに興味がない人にも関心をもってもらうためには、専門的な競技スポーツに絞らず、健康を維持するためのツールとしてや、見て楽しむ、ボランティアで支えるなど、あらゆる関わり方を意識してもらえような情報を発信していく必要があります。
- ③ 子どものスポーツに関しても、学校に任せっきりにするのではなく、地域が子どもの成長にかかわる意識が大切です。課外活動などの機会、子どもとの接点を増やしていくべきと考えます。今後は学校に部活動がなくてもスポーツクラブなどで対応できる仕組みの検討も必要です。

まとめ

地域コミュニティを活性化するために、市内の関連団体が連携する場を設けること。また、スポーツは「する」だけでなく「みる、ささえる」など、あらゆる関わり方を意識してもらえような機会づくりと情報を発信し、地域がスポーツクラブなどの活動を通して、子どもの成長を含むコミュニティに関わっていかうとする土壌を確立すること。

3 総論

【現状と課題】

- ・市民アンケートによると、多くの市民が「三田国際マスターズマラソン」が市の知名度の向上や集客に効果的なイベントであると感じている。
- ・三田市の豊かな自然環境や文化などの魅力資源を生かしたスポーツの推進とともに、スポーツツーリズムの展開など、魅力発信につなげていくことが必要である。
- ・「する」スポーツはもとより、地域で活動する「兵庫ブルーサンダーズ」「西宮ストークス」の選手やパラリンピック出場者など、地域の競技スポーツに携わる人材・団体等との交流の機会や、トップレベルの観戦の機会づくりなど、市民の「みる」、「ささえる」スポーツをサポートする環境づくりが必要である。

以上の現状と課題を踏まえ審議した結果、以下のような意見や指摘がなされた。

(1) 「三田らしいスポーツの推進」

- ① ウォーキングコースを市内の広いエリアに10コースも用意し、市民にマップを提供している自治体は他にあまり例がありません。ウォーキングへの取り組みそのものが三田らしさと言えます。約1700人が参加する桜回廊ウォークも、三田らしいウォーキングの一つに数えられます。三田の地の利を生かしたスポーツとして、ウォーキングの他に、サイクリング、キャンプにも特に注力して取り組むべきです。
- ② 競技スポーツに限らずあらゆる日常の身体活動をスポーツととらえ、全ての市

民が、気軽に運動、スポーツに取り組める環境、仕組みを構築すべきです。

- ③ スポーツの人材バンクの整備や市内在住のトップレベルの選手や指導者の活用、姉妹都市からのスポーツ選手招聘など、三田市ならではの人材活用を促進すべきです。

(2)三田市の地域課題に取り組む「スポーツ団体・組織の強化」

- ① 市のスポーツを取り巻く環境には、少子高齢化が顕著になっている地域、子どもの居場所づくり、学校部活動のあり方、障がい者との共生、働き盛り世代の運動離れなど、さまざまな課題を内在している。地域課題解決に向け、スポーツを通して総合的な活動ができるよう各種スポーツ団体、地域団体が力を発揮していくべきです。
- ② 市内にはスポーツクラブ21、体育協会、体育振興会、スポーツ推進委員会等、様々なスポーツ団体がありますが、それらの団体が情報共有や相互協力体制の強化を図ることができるよう、一堂に会し話し合える機会を市が設けるべきです。

おわりに

当審議会では、平成29年7月28日付けで三田市長から諮問を受けて以来、「三田らしさ」の視点を大切に、今後の三田市のスポーツのあり方を見据えたうえで「第2次三田市スポーツ推進基本計画(案)」が掲げる4つの基本コンセプトに対し審議を重ねてきました。本答申では、これらの計画を踏まえ、現行の「後期三田市スポーツ推進基本計画」が目指してきた生涯スポーツ社会の実現を継承しつつ、新たな三田市スポーツ推進基本計画がキャッチフレーズとして掲げる「スポーツで人生が変わる」ことを、全ての市民が実感するために必要な提案を述べるとともに、総論では「三田らしいスポーツの推進」と「スポーツ団体・組織の強化」のために特に重点的に取り組むべき施策を挙げました。これらの施策が着実に実行されれば、三田市のスポーツの発展はもとより、市民が「する・みる・ささえる」スポーツの環境づくりの実現に寄与するものと確信しています。

この答申内容を実現するためには、三田市スポーツ推進基本計画が実効性を持ち、広く市民に受け入れられるものであることが肝要だと考えます。

最後に、今回の答申作成にあたり、三田市のスポーツ施策の活性化を切に願っています。

三田市三田市スポーツ推進審議会委員名簿

(委員は50音順)

たかみ 高見	あきら 彰	会長
ふじわら 藤原	まさあき 正明	副会長
きたがわ 北川	あきひろ 明博	委員
こうげ 高下	たく 沢	委員
さいとう 齊藤	こうじ 晃司	委員
さつま 薩摩	たかし 高志	委員
すえまつ 末松	みちまさ 道正	委員
たに 谷	めぐみ めぐみ	委員
とくまる 徳丸	まさひろ 正博	委員
ふるた 古田	しげあつ 茂充	委員
ろくたん 六反	くにお 国男	委員
わたり 渡	ともみ 朋美	委員



三文第207号
平成29年7月28日

三田市スポーツ推進審議会
会長 高見 彰 様

三田市長 森 哲男



諮 問 書

第2次三田市スポーツ推進基本計画(案)について(諮問)

市では「する・みる・ささえる」スポーツの環境づくりとスポーツが持つ多面的な可能性をさらに拡げるため、「子どもに夢を!」「高齢者に生きがいを!」「障がい者に元気を!」「地域コミュニティの活性化を!」をコンセプトにスポーツを通じたノーマライゼーションを進め、すべての市民がスポーツの価値を共有する共生社会を目指しています。

つきましては、第2次三田市スポーツ推進基本計画を策定するにあたり、三田市スポーツ推進審議会条例第2条の規定に基づき、第2次三田市スポーツ推進基本計画(案)における各コンセプトについての貴審議会の意見を求めます。